

6月定例議会で補正予算が可決

6月22日に行われた日南町議会定例会議において以下の内容が可決されました。これにともない林業機械導入補助金の町単独補助分が上乗せされ林業振興に一層のはずみがつきました。

内容

予算現額 5,966,638千円

補正額 53,323千円

補正後予算額 6,019,961千円

主な補正

(歳入)

県支出金 △2,429千円

繰越金 48,833千円

町債 6,000千円

(歳出)

議会活動753千円(議員行政調査旅費増額)

観光振興対策事業465千円(古事記編纂1300年記念事業執行にかかる経費等)

公園施設管理事務2,547千円(井上靖記念館トイレ改築工事費)

保育園管理運営事務1,003千円(備品購入)

21世紀水田農業確立対策△1,367千円(農業振興支援事業交付金等)

小規模零細地域対策1,239千円(日南プロイラー鶏舎屋根スレート修繕)

山村振興一般対策2,374千円(山村振興管理施設雪害による破損修繕等)

森林保全総合対策39,800千円(高性能林業機械導入補助金)

土木一般管理事務5,916千円(河川改修事業負担金増額)



日南町民大学における講話から「日南の森から地球を動かす」

再生可能エネルギーによる電力の固定価格買い取り制度がまとめられつつあり、7月には最終決定される。

あらためて再生可能エネルギーの特性と課題を整理してみる。

太陽光：買取り価格も高くなっているが、要するに発電原価が高いということ。夜間の発電ができないことで効率が最大50%という問題がある。

風力：発電コストは低い、気ままな風力で、安定的な供給が難しい。受け取るほうからすれば、計画がたたない。機械もほとんどが外国から。事故の際の対応に難しさ。

バイオマス：コスト削減、原料の安定調達が大きな課題。発電所までの運搬コストを抑えることも必要だが、森林資源の近くに小中規模の発電所を建設するなどの展開もあるのでは。

水力：歴史的に確立されている。技術的にも安定している。発電所の立地位置の選定がカギになり、今後はその初期費用が高くなるのではないかと。

バイオマスによる火力発電ということであれば、資源のある中山間地域に立地し、そのエリア程度の範囲で消費することが効率的ではないか。電力と熱を地域の産業に供給するという形が、望ましいのではなかろうか。(次号へ続く) (NPO法人フォレストアカデミージャパン 副理事長)

再生可能エネルギー源ごとの特性、課題

新エネルギー部会「新エネルギー部会 中間報告」(2009年8月)等をもとに作成

エネルギー源: バイオマス

特性

- 電力、石油、都市ガスの供給等、多岐にわたる利用が可能である一方で、種類・利用方法によりコストが大きく異なる
- 原料の安定調達が課題
- 今後の支援制度等によって、輸入原料の導入が増え、国内のバイオマス産業に影響を及ぼし、発電・熱利用、マテリアル利用などと競合する可能性あり
- バイオ燃料は、既存の輸送用燃料(ガソリン・軽油・ジェット燃料)への混合が可能であり、比較的早期に実施できる対策であるが、一方でLCAでの十分な温室効果ガス排出削減効果、エネルギーセキュリティ、コスト低減等を確保しつつ、持続可能な形で導入していくことが必要
- 原料との競合を回避するために、木や草を原料とするセルロース系原料の利用が重要

再生可能エネルギー源ごとの特性、課題

新エネルギー部会「新エネルギー部会 中間報告」(2009年8月)等をもとに作成

エネルギー源: 水力

特性

- 日本のエネルギー自給の約35%を担う純国産エネルギー
- 安定的な発電が可能であり、技術的にも成熟。中小水力発電への関心の高まり
- 立地制約が大きく、今後発電コストが増加する可能性が高い

エネルギー源: 地熱

特性

- 安定的な発電が可能であり、技術的にも成熟
- 温泉地域の近傍を中心に日本国内に豊富に賦存するが、昨今新規立地が進んでいない
- 立地制約(自然景観、温泉資源等)と、それによる開発コストの上昇